

本資料は2015年11月15日付で技術諮問委員会より提出された報告書を原子力リスク研究センターにて仮訳したものです。正式な報告書は英文版の原文のみとなりますのでご注意ください。

原子力リスク研究センター 技術諮問委員会
一般財団法人 電力中央研究所
〒100-8126 東京都千代田区大手町1-6-1

2015年11月15日

ジョージ・アポストラキス博士
一般財団法人 電力中央研究所
原子力リスク研究センター所長
〒100-8126 東京都千代田区大手町1-6-1

件名： 2016年度のNRRC研究計画案についてのコメント

アポストラキス博士

2015年10月26日～30日に開かれた原子力リスク研究センター（NRRC）技術諮問委員会（TAC）の第4回会議で、NRRCの研究計画案をレビューするためにNRRC職員と会合を持った。このレビューの目的は、研究計画の技術的メリットについて、およびその計画がNRRCの現在のミッションを支える上での妥当性について、コメントを提供することであった。

結論

用意されたプレゼンテーション、NRRC 研究員との補足的な議論、日本における知識の現状、日本の電力会社の現状でのニーズに基づき、提示された研究項目が適切であり、NRRC のミッションを支えるものであるという結論に達した。

背景

研究計画の最も重要な目的の1つは、提案された根拠、知識の現状、センターの目標に対する研究の貢献度と重要性など、研究ニーズの背景と重要性を示すことである。プレゼンテーションでは、研究活動の目的、ギャップ、中間目標（マイルストーン）が公式に示され、提案された研究で何を目指すかが明確かつ簡潔に説明された。

今回のNRCC研究計画のレビューは、研究活動のうち、明示された目的や期待される成果のレビューに限定され、中間目標や完了時期の詳細なレビューは含まない。

議論

第4回 TAC 会議では、NRRC 職員が委員会のレビューとコメントを受けるため、センターの研究計画の全体像を示すハイレベルのプレゼンテーションを行った。プレゼンテーションは、2016 年度に開始される予定の活動を主に取り上げた。これらの活動は、特定の問題に対する回答を見出す応用科学研究を中心とする。これには、探求型の研究項目や事実調査（情報収集）も含まれる。外部事象以外の技術分野では、1 つの例外を除き、提案された応用研究分野の主目的は、現在入手可能な情報（回路解析や火災頻度推定など）を収集し、解釈することである。1 つの例外は、情報収集と最新知識の拡充の組み合わせとなる人間信頼性解析の研究分野である。自然外部事象（地震、津波、竜巻／台風、火山など）の研究項目は探求型の研究（試験を行って因果関係を理解するなど）や、予測型の研究である。

用意されたプレゼンテーション、NRRC 研究員との補足的な議論、日本における知識の現状、日本の電力会社の現状でのニーズに基づき、提示された研究項目が適切であり、NRRC のミッションを支えるものであるという結論に達した。

敬具

ジョン・W・ステットカー（本人署名）
委員長

参考資料

記載略